

SDGs未来都市鶴岡 デジタル化推進有識者会議

報告・協議 会議資料

鶴岡市企画部デジタル化戦略推進室

2026年3月23日





1 本日の論点

2 デジタル化の進展度と生活の満足度に関する市民アンケート結果

3 「行政手続きのデジタル化と業務効率化」
「各分野におけるデジタル技術の有効活用」の主な事業

参考

① デジタル化施策の体系図

② 成果指標（総合計画加速化アクション、Society5.0事業）の状況

③ 鶴岡市デジタル化戦略が目指す「デジタル実装社会」

1 本日の論点

■資料の構成

- 市総合計画後期基本計画の加速化アクション「総合的なデジタル化戦略の推進」に基づき、「行政手続きのデジタル化と業務効率化」「各分野におけるデジタル技術の有効活用」の2つの柱で、デジタル化の取組を整理
- 市民アンケート結果から、上記に関連する「主な事業」を抽出し、現在の取組状況や課題、方向性を整理
- 成果指標（KPI）は、総合計画後期基本計画、地方創生交付金Society5.0事業での設定数値の推移を整理

■ご助言を頂きたい内容

- 『鶴岡市デジタル化戦略』と『鶴岡市総合計画後期基本計画』の整合・具体化を図り着実に推進していくため、「行政手続きのデジタル化と業務効率化」「各分野におけるデジタル技術の有効活用」の関連施策について、

①市民アンケート結果に基づき取組んでいる「主な事業」について、市としてどのようなことに留意し進めていくべきか

②市民アンケート結果以外で、有識者の視点から市として注力すべき分野・施策は何か

ご助言を頂きたく考えております。

■加速化アクション「総合的なデジタル化戦略の推進」

行政手続きのデジタル化と業務効率化

- ✓ 行政手続きのデジタル化による市民の利便性向上
- ✓ デジタル技術を生かした業務の効率化

関連施策

- ・マイナンバーカードを活用した各種証明のコンビニ交付及び窓口でのキャッシュレス決済の導入
- ・パソコンやスマートフォン等から補助金申請など電子申請できる事務手続きの拡充
- ・各種イベントや文化・スポーツ施設の予約のオンライン化
- ・朝日庁舎の改築にあわせた市民窓口等デジタル化の先行実施
など

各分野におけるデジタル技術の有効活用

- ✓ デジタル技術を活用した市民への情報提供の迅速化
- ✓ 医療などの各分野におけるデジタル技術の活用

関連施策

- ・災害発生時に避難情報などをPCやスマートフォンなどに伝達できる体制の整備
- ・スマート農業やインバウンド誘客、医療などでのデジタル技術を活用した取組の推進
- ・文化財や歴史的資料のデジタルアーカイブ化
など

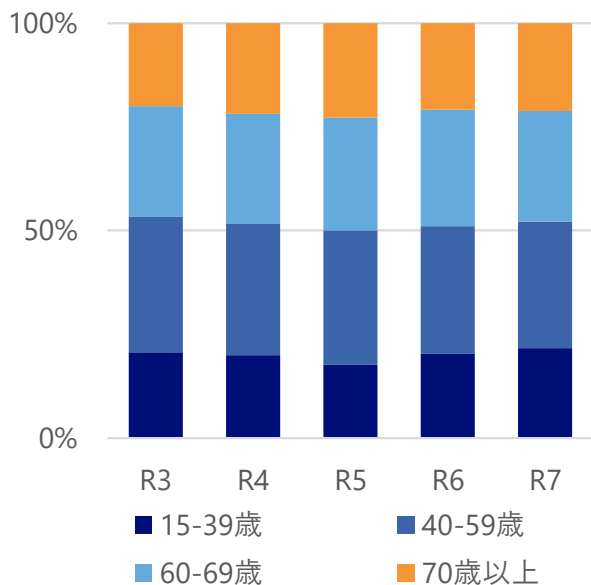
2-1 令和7年度デジタル化の進展度と生活の満足度に関する市民アンケート結果

| 項目 | 質問項目 |
|------|---|
| 実施期間 | 2025年6月27日（金）～7月18日（金） |
| 対象者 | 市内在住の15歳以上の男女 |
| 配布数 | 3,000サンプル（紙面郵送配布、紙面郵送回収・Web回答） |
| 回収数 | 929サンプル（紙回答：610、Web回答：319）（回答率31%、紙面・Web回収） |

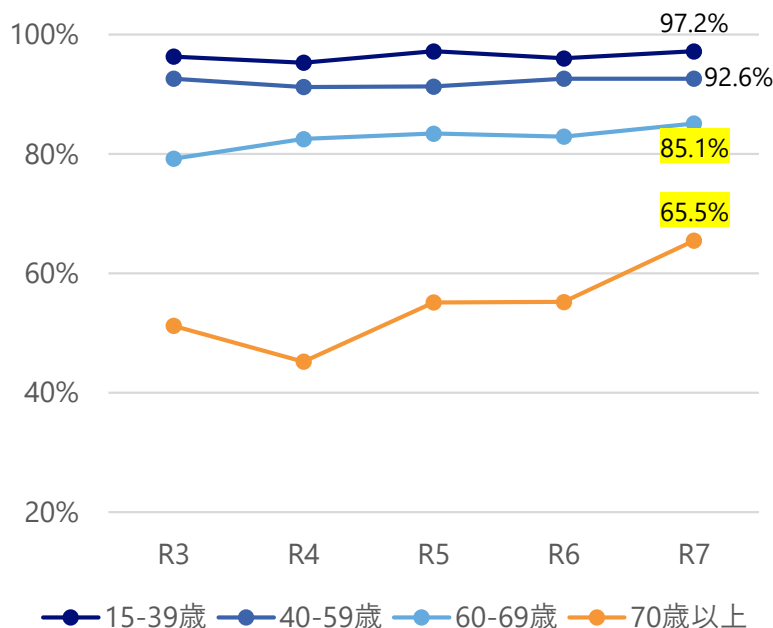
詳細なレポートは、
市公式HPトップページ
→ 市政情報
→ 情報政策 をご覧ください。



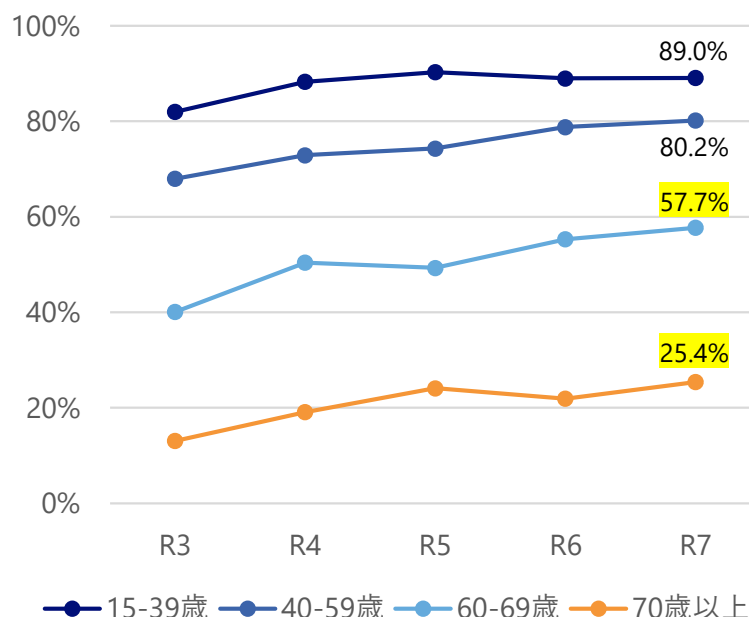
■ グラフ1 回答者年代



■ グラフ2 スマートフォン所持率



■ グラフ3 SNS（LINE,Facebook等）を毎日使う人の割合



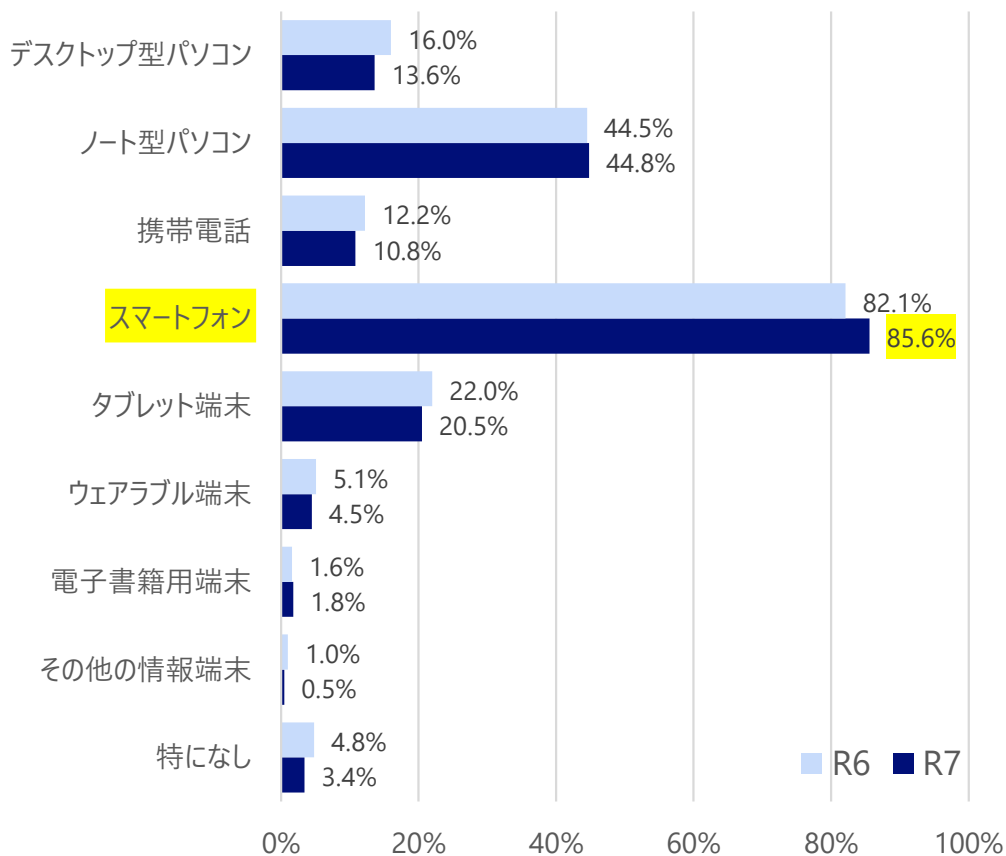
傾向

- 70歳以上のスマートフォン所持率が10ポイント上昇。（55.2%→65.5%）
- 70歳以上で毎日SNS（LINE等）を使う人が4人に1人へ

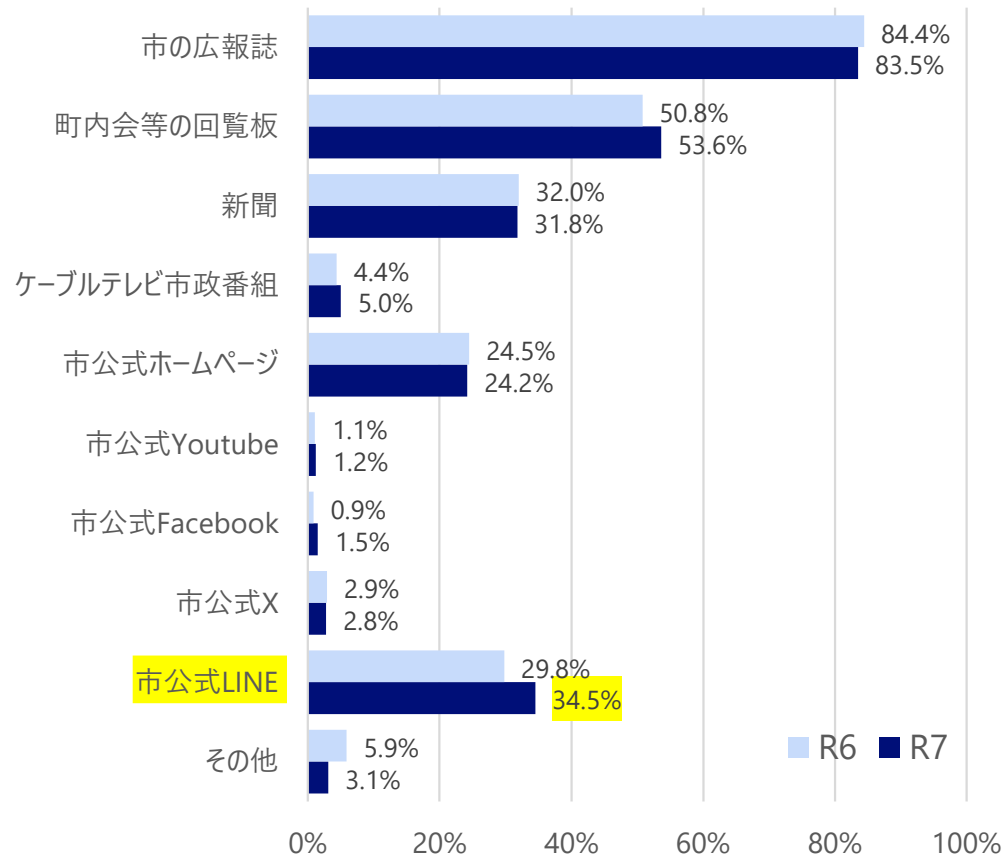
高齢者のデジタル環境が着実に進展

2-2 令和7年度デジタル化の進展度と生活の満足度に関する市民アンケート結果

■グラフ4 使用している情報端末（複数回答）



■グラフ5 市が提供する情報の入手手段（複数回答）



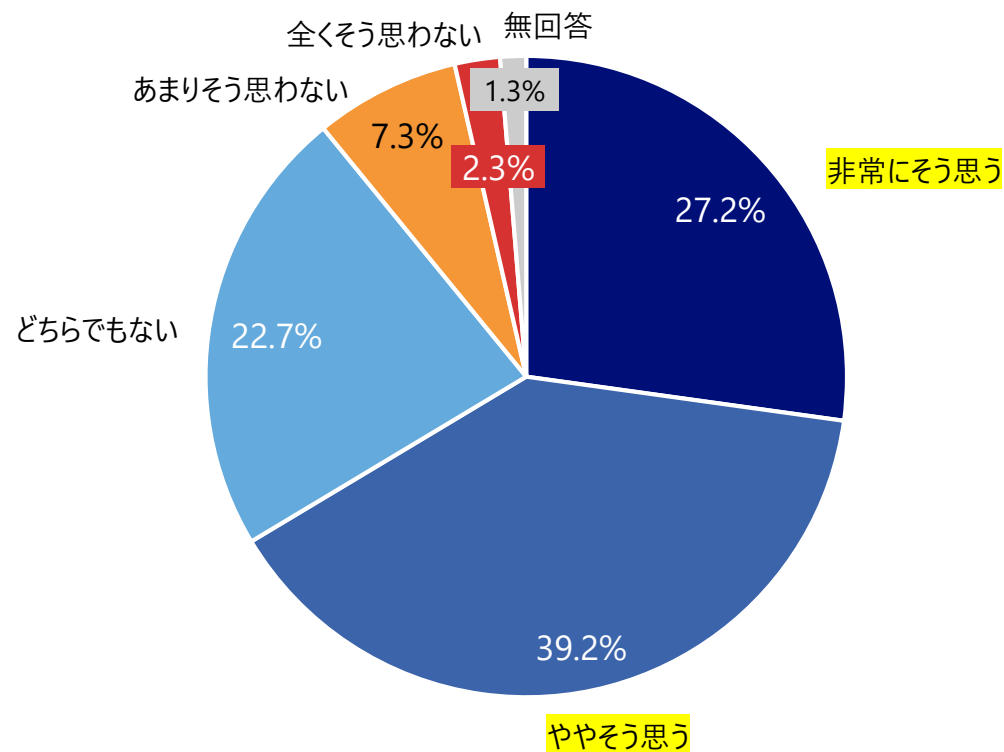
傾向

- 情報端末の使用率はスマートフォンが他の情報端末を圧倒的に優る
- 市からの情報入手手段で「市公式LINE」が5ポイント上昇し、トップ3に

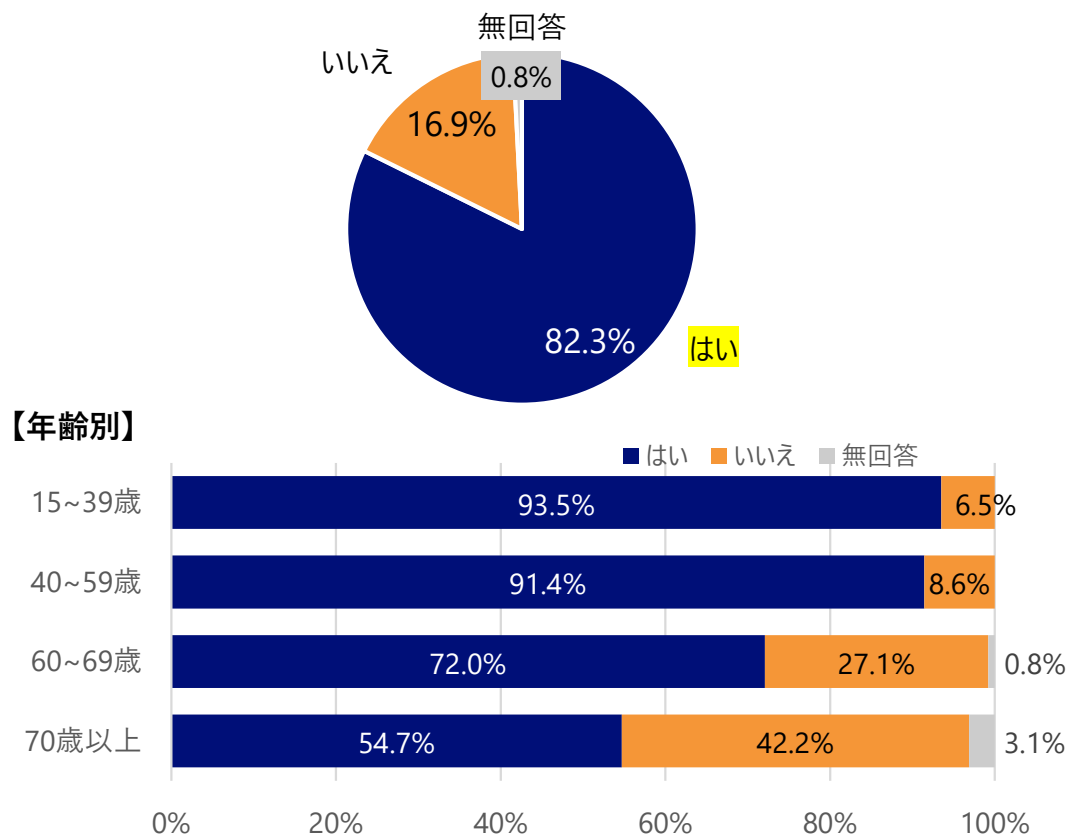
オンラインによる市民の情報取得はスマートフォンが中心で、市公式LINEからが定着

2-3 令和7年度デジタル化の進展度と生活の満足度に関する市民アンケート結果

■グラフ6 デジタル技術の導入・デジタル人材育成に市が積極的に取り組むべきか



■グラフ7 鶴岡市役所の手続きで電子申請・電子交付を利用したいか



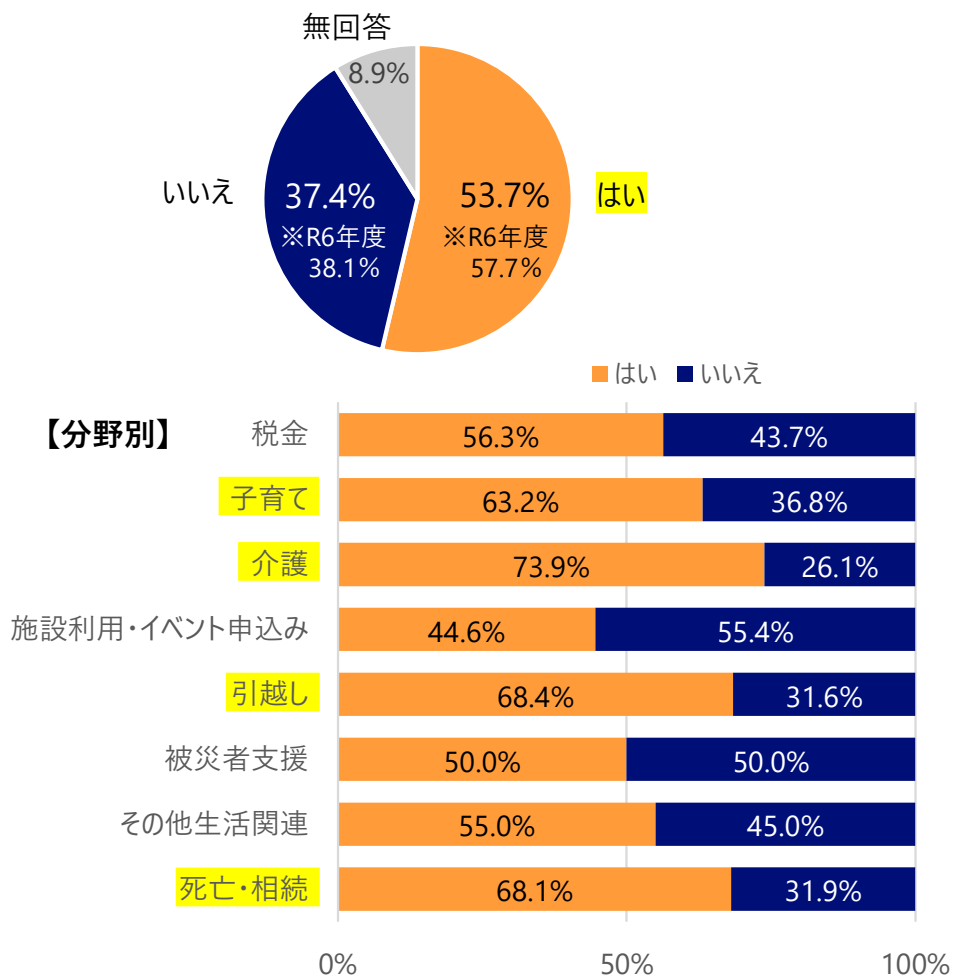
傾向

- 市役所におけるデジタル技術導入、デジタル人材育成が求められている。
- 市役所の窓口に行かなくても手続きができる電子申請・電子交付を望む市民が8割を超え、60歳未満は9割を超える。70歳以上の二人に一人は利用を望む

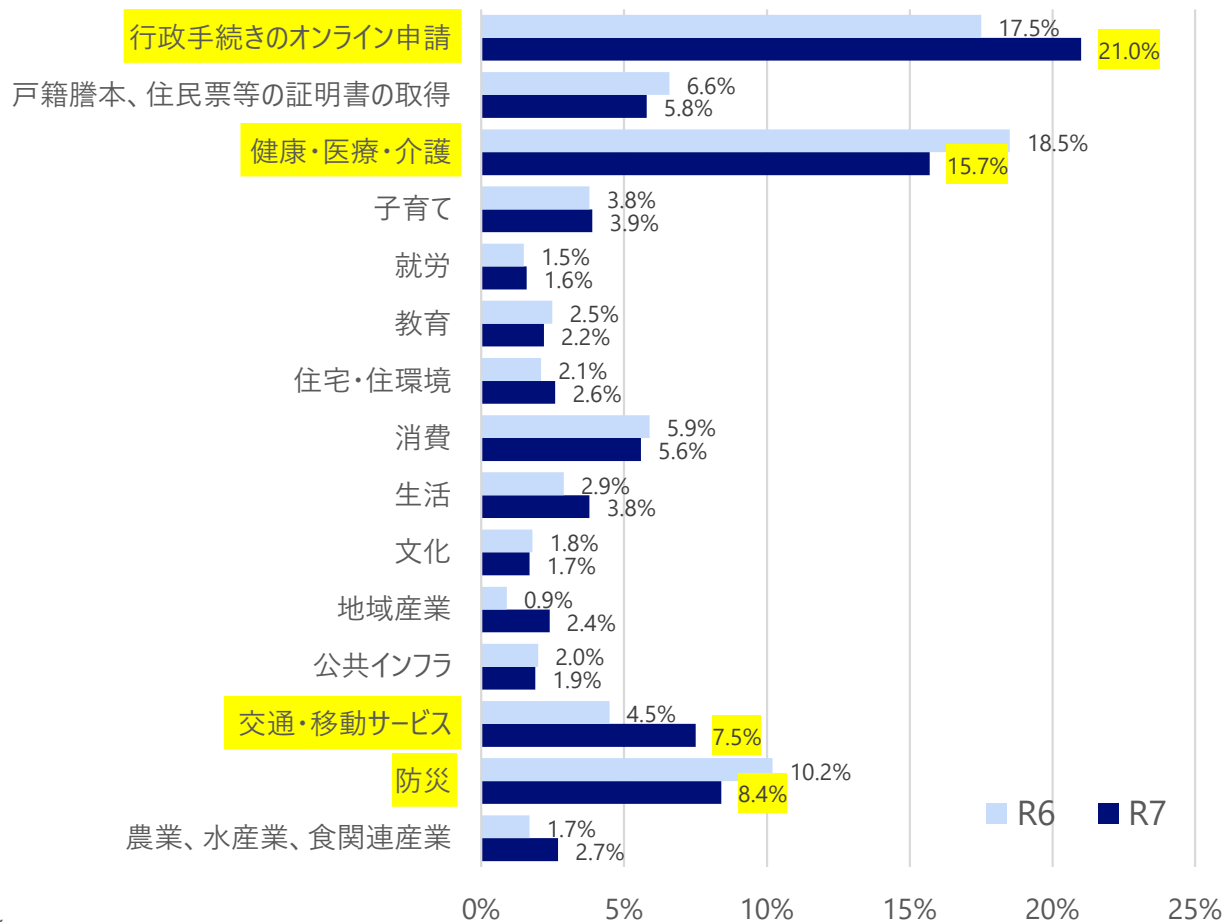
市民は行政手続きのデジタル化を強く望み、特に、現役世代・子育て世帯は、その傾向が顕著

2-4 令和7年度デジタル化の進展度と生活の満足度に関する市民アンケート結果

■ グラフ8 鶴岡市の行政手続きを面倒と感じたことがあるか



■ グラフ9 デジタル化が進んで欲しいと思うもの



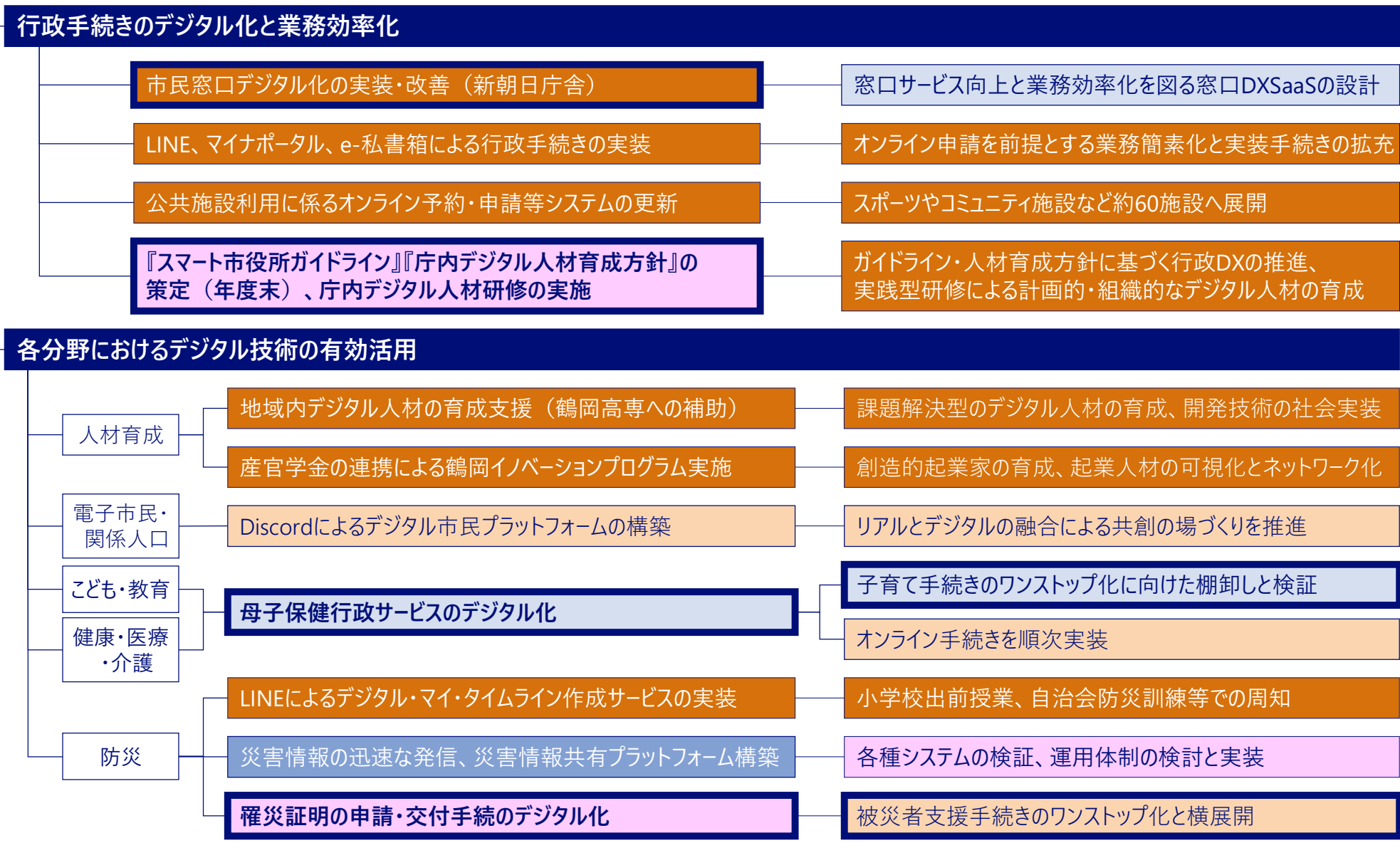
傾向

- 行政手続きを面倒と感じる傾向は低下しているが、まだ半数以上は面倒と感じている。
- デジタル化が進んで欲しい分野では「行政手続きのオンライン申請」「交通・移動サービス」が上昇している。

行政手続きのオンライン化、健康・医療・介護、防災に加え、交通等サービスも検討が必要

3-1 「行政手続きのデジタル化と業務効率化」「各分野におけるデジタル技術の有効活用」主な事業一覧と今後の方向性…青太線囲み部を詳細説明

市民アンケート結果等を踏まえ、
主な事業を抽出



3-2 市民窓口デジタル化の実装・改善 — 新朝日庁舎での運用状況



【市民接点①】
朝日庁舎と
地域拠点
**遠隔行政
手続システム**

■朝日庁舎と南出張所（上田沢）、大網診療所
間にシステム設置（R6.8.1～、R3～南出張所）

- 住民票、印鑑証明書、戸籍・税務関係の諸証明書の相談、申請交付が可能
- 実績：R6：65件（上田沢44件、大網21件）
R7：37件（上田沢29件、大網8件）



【市民接点③】
朝日庁舎窓口
**書かない
申請用端末**

■朝日庁舎窓口に1台設置（R6.12.9～）

- マイナポータルの32種の手続きを実装。キオスク端末の設置に伴い**利用件数が激減**。
- 実績：旧庁舎・・・132件（R6.12～R7.6）
新庁舎・・・1件（R7.7～R8.1）



【市民接点②】
朝日庁舎
ATM端末

■本所・朝日庁舎に各1台設置（R6.8.1～）

- マイナンバーカードの保険証利用申込など従来のATM機能が利用。
- 実績（朝日庁舎での保険証利用申込）：
旧庁舎・・・約130件（R6.8～R7.6）
新庁舎・・・23件（R7.7～R8.1）



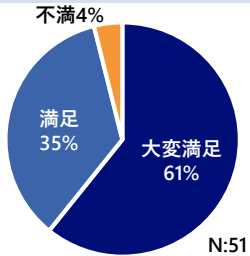
【市民接点④】
朝日庁舎窓口
**キオスク
（行政証明書発行）
端末**

■朝日庁舎窓口に1台設置（R7.6.30～）

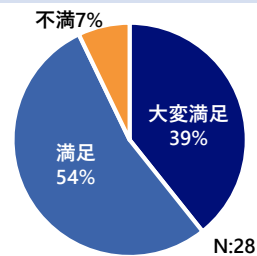
- 以下4種類の発行が可能。
- 実績：252件
（内訳）住民票50件、印鑑証明91件、
戸籍関係82件、所得課税証明29件

市民窓口デジタル化の評価（利用者アンケート）

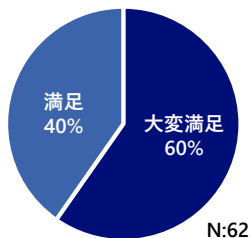
遠隔行政手続システム



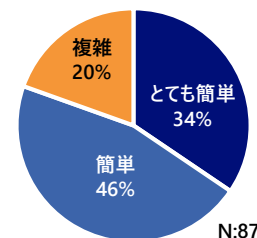
書かない申請用端末



ATM端末



キオスク端末



書かない申請用端末の課題

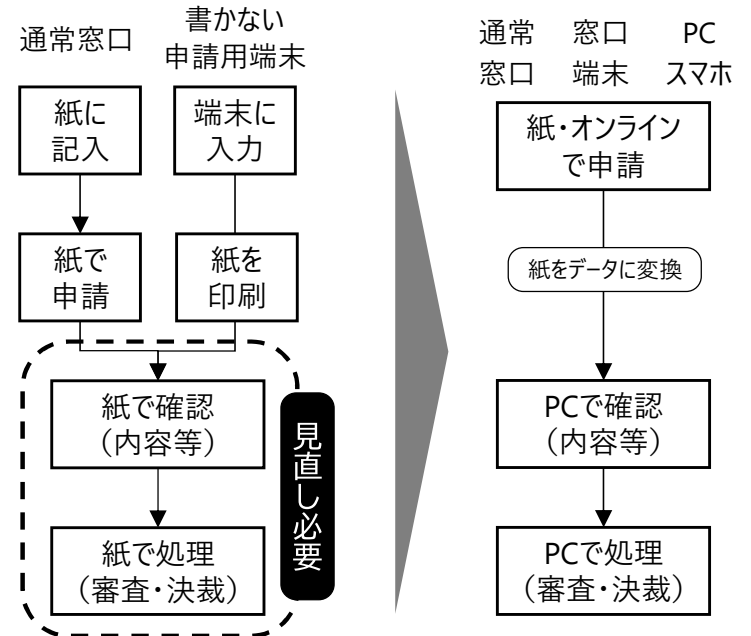
■手続きの重複

書かない申請用端末とキオスク端末とで、**主要な手続きが重複**し、かつキオスク端末の方が手数料が安いいため、書かない申請用端末の利用につながらない

■バックヤードの業務負荷

書かない申請用端末が**基幹システムと連動していない**ことから、バックヤードでは紙で審査・決裁する必要があり、業務効率化につながらない

改善の方向性



標準化を見据え業務フローを改善

3-3 スマート市役所の推進に向けた取り組み

スマート市役所

デジタル技術やデータを行財政運営やまちづくりに積極的に取入れ、地域課題の解決や新たな価値創出を志向する市役所

1 スマート市役所の主な取組

● 『スマート市役所ガイドライン』の策定

- R7.8～10月にガイドラインの庁内説明会、職員アンケートを実施
- アンケートに回答した職員の93%が「必要」と回答。また、ガイドラインの内容について、約3割が「理解できた」、約6割が「部分的に理解できた」と回答
- 年度内策定に向け、庁内手続き中

● 職員DX実践力の向上・事務効率化ツールの導入

- 市公式LINEへのオンライン手続きの実装を通じて、原課職員起点の主体的なデジタル化の取組が広がりつつある。
- この動きをさらに加速するため、有志職員によるデジタルツールの研修会、研究会を実施し、職員及び組織のデジタル対応力の底上げを進める。

【実績（課数・人数は延べ数（重複含む）、R8.2.16時点）】

- | | |
|---------------------------------|--------|
| ①デジタル技術活用実践研修会（防災、ノーコードツール） | 7課7名 |
| ②ノーコードツール研究会 – kintone | 34課58名 |
| ③生成AI研究会 – Qommons.ai | 37課76名 |
| ④BPRツール研究会 – Govmates Pit | 19課28名 |
| ⑤デジタル市民参画プラットフォーム研究会 – Discord等 | 7課11名 |
| ⑥フロントヤード（窓口業務）改革研究会 | 5課11名 |

3 今後の方針

『スマート市役所ガイドライン』の普及

- デジタル化戦略推進室、職員課、野村総研がまとめた、『鶴岡スマート市役所ガイドライン』をR7年度に策定
- 8年度より、職員研修での活用や庁内説明会等を継続で実施し、職員と組織のDXマインド醸成をはかる。
- デジタルツールの有志職員研究会を継続し、持続可能で創意工夫に富む行政DXにチャレンジできる組織風土を醸成する。

ノーコードツール（kintone）の活用促進

- ノーコードツール（kintone）では備品台帳管理アプリや、つるおかエール支援者管理アプリ、転校予定者受付アプリなど15アプリが開発済
- 開発アプリの実装、開発中の114アプリの実証を推進する。また、庁内アプリコンテストやインナー広報で役所内での横展開を図る。

生成AIの活用促進

- 自治体業務に特化した生成AI（コモンズAI）を全職員の業務支援として活用できる環境と運用ルールを整備し、行政DXの基盤を強化する。
- 市公式LINEでのチャットボットや、市民窓口での相談支援ツールなど生成AIを活用したサービスを導入し、市民窓口の高度化と業務効率化を進める。

行政手続きのデジタル化と業務効率化

(参考) 『スマート市役所ガイドライン』の骨子

1 目指すスマート市役所像

- デジタル技術やデータを行財政運営やまちづくりに積極的に取入れ、地域課題の解決や新たな価値創出を志向する市役所

2 ガイドラインの趣旨

- 総合計画・行革計画等のデジタル化関連の施策実現に向けて、全庁的な取組を加速するための職員と組織の行動指針・実践資料集

3 スマート市役所の基本的な考え方

① 目的ではなく「手段」として進めるデジタル化

- 新技術の導入ではなく、時代に合わない内部ルールや業務フローを積極的に見直すことを前提に、制度や政策、組織のあり方等を変えていく。

② 「サービスデザイン」「アジャイル」を意識

- 役所側の視点を重視した手続きを利用者に「使わせる」のではなく、利用者の立場を考慮し、業務フロー等を見直し、素早く企画立案し、データに基づき仮説検証を繰り返し改善していく。

※1 サービスデザイン

利用者(人間)中心を原則に、行政サービスをデザインし、誰もがいつでもどこでもデジタル化の恩恵を享受できるようにする考え方

※2 アジャイル

「素早い」「俊敏な」という意味で、短期間でアイデアを立案し始動させ、データに基づき、仮説検証を繰り返し、改善につなげていく考え方

4 スマート市役所の基本方針

① フロントヤード業務の高度化

- 行政と住民との接点（フロントヤード）について、マイナンバーカード等を活用し、「書かない」「待たない」「行かない」手続きへと窓口の仕組みを見直し、市民が使いやすい行政サービス、住民の希望に沿った窓口を目指す。

② バックヤード業務の効率化

- 市民対応（フロントヤード）と直結する内部業務や、行政運営を支える基幹系システムに関わる業務などバックヤードにも積極的にデジタル技術を活用し、庁内業務の効率化と、職員の時間を生み出す業務フローの構築を目指す。

③ デジタル基盤の整備

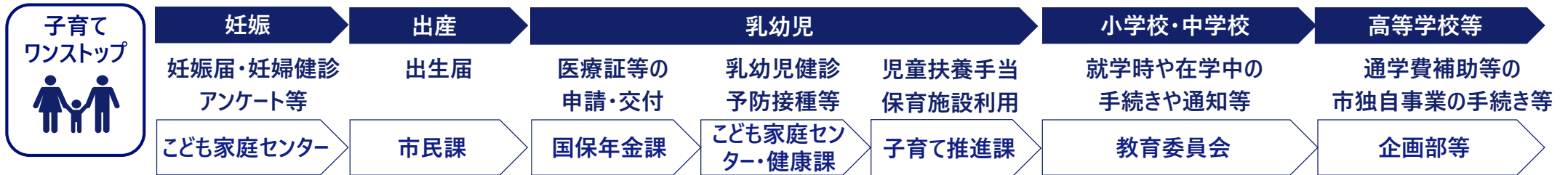
- フロントヤードとバックヤードの取組を確実に進めるため、庁内の働く環境の整備、デジタル人材育成、情報セキュリティの確保、デジタルに不慣れな人への支援（デジタルバйд対策）などを総合的に進め、持続可能なデジタル基盤の整備を目指す。

5 職員・組織が大切にしている価値観（行動指針）

| 職員 | 組織 |
|-----------------------|--------------------------|
| ①常にあるべき姿を目指す | ①スモールスタートで素早く取り組む |
| ②利用者目線で取り組む | ②誰一人取り残されないようきめ細かく対応する |
| ③シンプルな業務プロセスを心がける | ③所属の枠に限定せず全庁的な視野で取り組む |
| ④現状の見直しや新しい取組にチャレンジする | ④データに基づくEBPMとPDCAを意識する |
| ⑤できない理由よりできる方法を考える | ⑤市民・地域・企業等との信頼・連携関係を構築する |

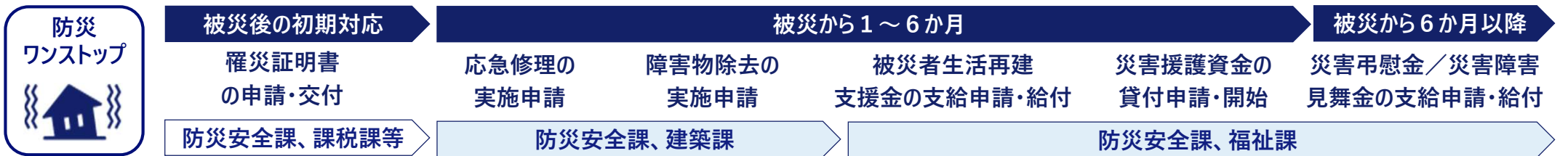
各分野におけるデジタル技術の有効活用

3-4 子育て手続き・防災（被災者支援）手続きのデジタルワンストップ化



取組状況

- **子育て対象手続きの棚卸**
 - ・全課を対象に、「妊娠時から中学校卒業までの子を持つ世帯を対象とした制度、事業等で受付する全ての手続き（申請、届出、申込、アンケート等）」を調査
 - ・対象手続き133件のうち、デジタル化が未定の手続き45件（主に子育て推進課、こども家庭センター所管）についてデジタル化を検討
- **以下の手続きのデジタル化を実現**
 - ・「届出保育施設等利用認定申請（子育て推進課）」、「ひとり親家庭夜間養護等事業利用申請（こども家庭センター）」、「子育て短期支援事業利用申請（こども家庭センター）」



取組状況

- **建築課所管の各種申請（支援メニュー）の棚卸**
 - ・災害時の家屋被災に対する調査及び支援手続きの棚卸調査を実施
- **市公式LINEを活用した「被災者支援手続きナビ」を作成**
 - ・被害状況から適切な支援を判定するシナリオ型チャットを作成
 - ・実装マニュアル案の作成
- **マイナポータルによる電子申請・電子交付の検討**
 - ・上記申請に必要な罹災証明書について、市公式LINEからの誘導でマイナポータルでの電子申請、5e-私書箱での電子交付（写し）を検討

- **福祉課所管の各種申請（支援メニュー）の棚卸**
 - ・災害時の被災者支援に関わる各種手続きの棚卸調査を実施
- **市公式LINEを活用した「被災者支援手続きナビ」を作成**
 - ・同左
- **マイナポータルによる電子申請・電子交付の検討**
 - ・同左

3-5 その他の「主な事業」 個票①

| 項目 | 主な事業 | 令和7年度 of 取組・実績 | 令和8年度以降 of 取組 |
|-------------------------------------|-------------------------------|--|--|
| 行政手続きのデジタル化と業務効率化 | LINE、マイナポータル、e-私書箱による行政手続きの実装 | <p>職員の業務負荷軽減、ペーパーレスの推進、市民の利便性向上を目指し、市公式LINE、マイナポータル、e-私書箱等のデジタルサービスを活用し、申請から交付（給付）までの手続きのワンストップ化を進め、対象事業と取組範囲の拡大を図る。</p> <p>【実績（令和7年度）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子申請（LINE、マイナポータル）は、現在95件のオンライン手続きが実装済（R6：86件） 電子交付（e私書箱）は、「高校生通学費支援事業」1件だが、被災者支援手続き（罹災証明）、子育て関連手続き、施設利用等での導入に向け庁内協議中 | <ul style="list-style-type: none"> LINEでは、避難所チェックイン、介護認定状況の自動応答、道路陥没や鳥獣被害等の通報機能など約30手続を実装予定 業務棚卸を行った子育て関連の手続き、防災（被災者支援）手続きの電子申請・電子交付の実装を、引き続き推進する。 出産や引越し、おくやみなど、ライフイベントで生じる複数手続きの簡素化や来庁不要となる手続きのワンストップ化を関係課と協議しつつ推進する。 |
| | 公共施設利用に係るオンライン予約・申請等システムの更新 | <p>スポーツ施設、コミュニティセンター等の公共施設について、デジタル上で空き状況確認、利用予約、申請、キャッシュレス決済などの手続きができるようにする。</p> <p>【実績（令和7年度）】</p> <ul style="list-style-type: none"> R3.12に導入した旧施設予約システムは機能が限定的であったため、県市町村で共同調達する新システムへの乗換えを実施 R8.2に「だだちゃアリーナ」で新システムを運用し、7年度内中つるしんアリーナ等10施設で運用する。 | <ul style="list-style-type: none"> 8年度以降に、コミュニティセンター、出羽庄内国際村、公園施設等約50施設で順次、新システムを運用する予定。 運用状況を踏まえ、対象施設を拡大する。 |
| 各分野におけるデジタル技術の有効活用 【人材育成】 | 地域内デジタル人材の育成支援（鶴岡高専への補助） | <p>本市地域課題をデジタル技術の研究を通して解決する人材の育成を支援するため、鶴岡高専が取組む地域課題の把握、課題解決に資するデジタル技術の開発と実証活動に対し、補助金により支援する。R4年度から主に防災に関するテーマで防災安全課と連携し、技術開発と実証実験が行われている。</p> <p>【実績（令和7年度）】</p> <ul style="list-style-type: none"> R6から継続し「災害情報共有プラットフォームの構築」「災害時要配慮者向け情報伝達デバイスの開発」の2つのテーマで、研究者3名、学生5名が参画 伝達デバイスは、70歳代の独居高齢者宅で実証を実施 R8.2.19に研究成果報告会を開催 | <ul style="list-style-type: none"> 8年度は補助事業の最終年度のため、鶴岡高専及び市関係課と、成果の確認、今後の方針等について協議する。 |

3-6 その他の「主な事業」 個票②

| 項目 | 主な事業 | 令和7年度 of 取組・実績 | 令和8年度以降 of 取組 |
|-------------------------------------|-------------------------------|--|--|
| 各分野におけるデジタル技術の有効活用 【人材育成（・新規創業）】 | 産官学金の連携による鶴岡イノベーションプログラムの実施 | 地域で、創造的・革新的なビジネスアイデアを生み出すプログラムを通じ、創造的起業家を群として育成するため、地域金融機関、産業支援団体、教育機関、本市で実行委員会を組成し、鶴岡イノベーションプログラム（TRIP）を実施する。 【実績（令和7年度）】 ・第3期の「TRIP2025」を実施、参加者26名（R4からこれまでで延べ76名参加） ・R7.12.23に事業構想発表会で6テーマを発表 ・TRIPの過年度参加者を地域事務局に加え、プログラムノウハウの移行を実施 | ・第4期となる「TRIP2026」をはじめ、TRIPを継続実施することで、新規事業の創発に加え、地域で活躍する人材発掘及びその育成を行い、創造的起業家のコミュニティ形成を進める。 ・TRIPの過年度参加者を引き続き地域事務局に加え、プログラムノウハウの移行を進めることで、地域内でプログラムの自走化を図る。 |
| 各分野におけるデジタル技術の有効活用 【電子市民・関係人口】 | Discordによるデジタル市民プラットフォームの構築 | デジタル技術を利用し、地域住民・社会との関係性を創る基盤として「デジタル市民プラットフォーム」を構築し、そのツールとしてDiscordを導入し、多様な人材が地域づくりに参画する「関係人口」の増加を目指す。 【実績（令和7年度）】 ・Discordを含め、リアルとデジタルによる共創の場づくりを検討するため、デジタル市民プラットフォーム研究会を関係課と組成した。 ・TRIPを通し創業した民間プレイヤーと研究会職員とでDiscordを活用した情報共有を行った。 | ・R8に策定予定の新図書館基本計画等の行政計画づくりにDiscordを導入する。 ・デジタル市民プラットフォーム庁内研究会を継続し、行政と民間の共創を促進するためのツールとして活用するとともに、リアルとデジタルのプラットフォーム基盤づくりに取り組む。 |
| 各分野におけるデジタル技術の有効活用 【防災】 | LINEによるデジタル・マイタイムライン作成サービスの実装 | 住民一人ひとりがとる防災行動をあらかじめ計画する「マイ・タイムライン」を市公式LINEで作成できる機能を実装し、避難行動を含めた防災意識の向上を図る。 【実績（令和7年度）】 ・R7.11.9 市総合防災訓練で展示 ・R7.11.10 運用開始と市HP、SNS等で情報発信 | ・各地区での防災講座や研修会時で活用し、地域住民への普及と防災意識向上につなげる。 ・小学校等での出前授業や教員対象の研修会等で活用し、防災教育への普及を進める。 |
| | 災害情報の迅速な発信、災害情報共有プラットフォーム構築 | 再掲 地域内デジタル人材の育成支援（鶴岡高専への補助）のとおりに | 再掲 地域内デジタル人材の育成支援（鶴岡高専への補助）のとおりに |

参考① デジタル化施策の体系図

鶴岡市総合計画後期基本計画・加速化アクション 「総合的なデジタル化戦略の推進」(R6~10)

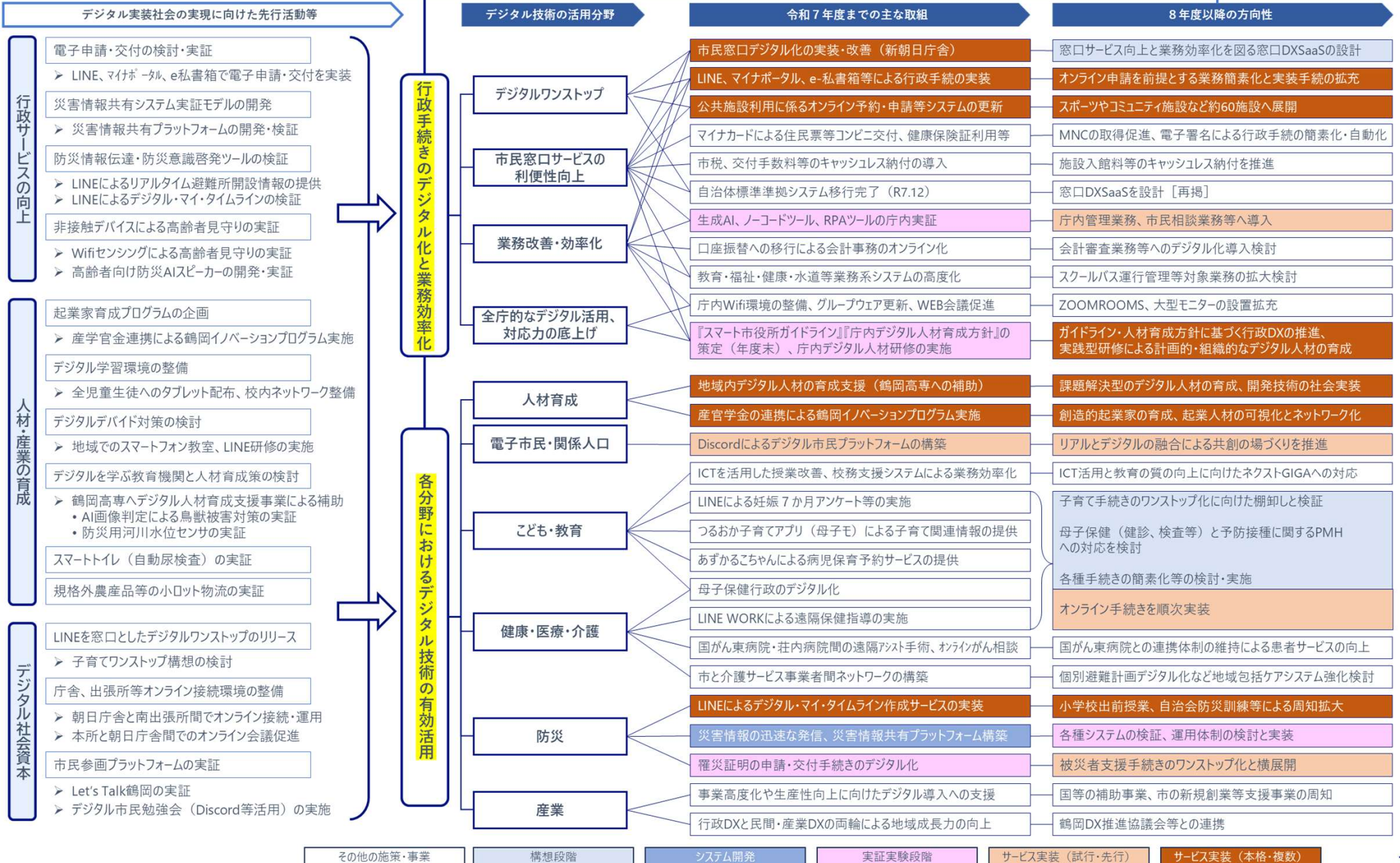
鶴岡市デジタル化戦略 (R4~)

鶴岡市行政改革大綱実施計画 (R3~7)

鶴岡市デジタル田園都市国家構想総合戦略 (R6~10)

デジタル技術の活用による「地域の個性を生かした社会課題の解決」

8年度に策定する新大綱の方針を反映



参考② 総合計画加速化アクション及びSociety5.0事業成果指標の状況

1 総合計画加速化アクション

| 成果指標 | 現状値 (R5年) | 目標値 (R8年) | R6年実績 | R7年実績 | 評価 |
|------------------|-----------|-----------|-------|-------|---------|
| マイナンバーカードの交付率 | 64.9% | 90% | 80.4% | 90.5% | 目標達成 |
| 市公式LINEを利用した人の割合 | 29.8% | 40% | 31% | 31.6% | 目標に向け進展 |

2 Society5.0事業

| KPIと実績概要 | KPI | 単位 | 2022年度増加分 | 2023年度増加分 | 2024年度増加分 | 2025年度増加分 | 2026年度増加分 | |
|----------|-----------------------|----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----|
| | | | 実績 | 実績 | 実績 | 計画 | 計画 | |
| | | | | | | 実績(1月時点) | | |
| ① | デジタル田園都市基盤上のサービス利用者 | 人 | 5000 | 6000 | 4000 | 200 | 約7000 | 200 |
| | (参考)年度末時点の累計利用者数 | 人 | 30,000 | 36,000 | 40,000 | | 47,000 | |
| ② | 中山間地域にて実証したサービスの社会実装数 | 個 | 1 | 1 | 3 | 2 | 2 | 2 |
| ③ | デジタルを活用した新規事業数 | 事業 | 2 | 2 | 2 | 2 | 4 | 2 |
| ④ | データに基づく地域サービスの改善数 | 個 | 7 | 6 | 3 | 2 | 2 | 2 |

目標達成

| | |
|-----------------------------------|--|
| KPI① デジタル田園都市基盤上のサービス利用者 | <p>■目的 デジタル基盤上サービスの市民の使用状況を可視化し、市民生活デジタル化の進展を把握</p> <p>■実績 デジタル基盤上のサービス利用者としての鶴岡市公式LINEアカウントの登録者数が2024年度末から約7000人増加し、約47,000人に</p> |
| KPI② 中山間地域にて実証したサービスの社会実装数 | <p>■目的 デジタル技術を活用し本市の地理的制約（東北一広い市域）の軽減につなげる社会実装数を把握</p> <p>■実績 ①中山間地域の庁舎において本所職員がオンライン対応等ができるよう朝日庁舎、温海庁舎に遠隔行政システムを設置 ②朝日庁舎に自動で証明書を発行できるキオスク端末を設置</p> |
| KPI③ デジタルを活用した新規事業数 | <p>■目的 起業家育成プログラム（TRIP）、デジタル人材育成事業など行政と企業、団体、学術機関との連携による地域に根差したデジタル技術の蓄積と人材育成の効果を把握</p> <p>■実績 TRIPの実施により以下の4つの新たな取組が創出 ①フリーランス事業者の孤独感に寄り添った横の繋がり形成、学びの場として、空き店舗をリノベーションした施設をオープンするとともに、会員向けコミュニティを運営。セミナー等をハイブリット配信でも実施（合同会社も設立） ②DIY講座をリアル開催（SNSでの情報発信も併用）し、住所不定型DIYスキルアップジム事業を展開 ③空き家等の整理で発生する不用品（建材・古道具等）をそのストーリーとともに救い出し、アップサイクルによる新たな付加価値をつけて古民家カフェで販売（SNSでも情報発信）し、資源循環の流れを創出 ④地域の若者に訴求するイベントを仕掛け、SNS・若者へアプローチすることにより、地域の魅力を国内外に発信していく事業を実施</p> |
| KPI④ データに基づく地域サービスの改善数 | <p>■目的 市民アンケート等により寄せられた市民の声から新たにデジタルを導入するなど改善を図ることで市民生活の向上状況を把握</p> |

■実績 ①防災分野・・・「デジタル・マイ・タイムライン」の市公式LINEへの導入、②子育て分野・・・「子育て支援医療証」に関する手続きのオンライン化

参考③ 鶴岡市デジタル化戦略が目指す「デジタル実装社会」

ローカルハブ

高い生産性と自立・循環的な経済を有し、新しい価値を創造する人材が集う都市

①求心力

- ・企業の意思決定機能
- ・国家機関 等

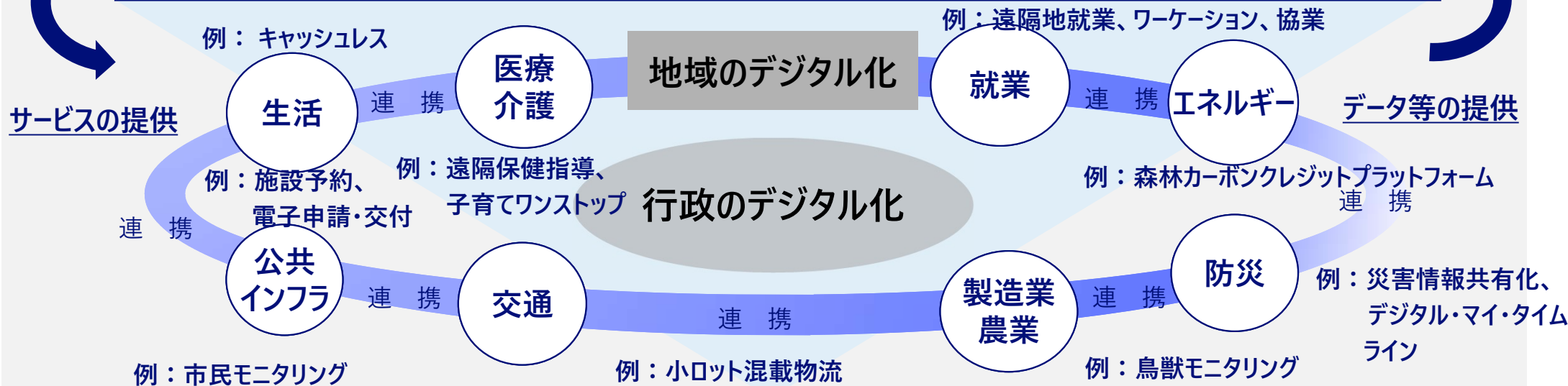
②連携力

- ・国際化企業
- ・世界で存在感のある技術力

③循環力

- ・新しい産業を育成する仕組み
- ・産業革新を応援する仕組み

ローカルハブの循環



ウェルビーイング・コミュニティ

市民が伝統と豊かな自然の中で、健やかに安心して生きがいを持てる地域